

## オーライ！ニッポン フレンドシップ大賞

農業生産法人 株式会社 信州せいしゅん村（長野県上田市）

### ■概要

信州せいしゅん村は地域住民が運営主体となり、行政からの財政的な支援を受けずに『前例のないことを独創的に』と様々なアイデアで農村と都市の交流事業を展開。モットーは【共に野山を遊び、祭りに加わり、大地を耕す】で、常に来た人と一緒になって遊び働き、50・100年後の農村の中山間地農村の存続を願って、都市住民の方々に来てもらうことで成り立つ『サービス提供型農村』を目指しています。交流を進めるには、美しい農村景観や環境の維持が必要であるとの認識のもと、荒廃農地の解消・再生を積極的に取り組んでおり、荒れた桑園の復畑に希望者を募り、「せいしゅん村開拓団」を結成し、8反分を開墾し蕎麦を育て、そば道場も開催。食の風物詩「寒さらし蕎麦」の商品化で蕎麦焼酎を製造特許申請するなど、商品開発・販売に繋げている。移住希望者にはふるさと回帰予備校を開講し、農業や農村の現状等の本音から、移住の手順や準備、体験談や失敗談、地域との付き合い方等を詳しく手ほどきを行っている。



2006年からは「ほっとステイ」参加者へのアンケート調査結果から「癒され感」の数値化を計り、信州大学感性工学科の協力のもと、農村体験には「癒され感」を向上させる効果があることを実証。この癒し効果を「農村セラピー」と呼び、アンケート数値は『生き方満足度』なので、この数値を『セラッチ』と呼称し、ネット上で体験のビフォーアフターを計測できるシステムを立ち上げ、『セラッチ』を活用して更なる農村振興を図ることを目指し、長野県の支援のもと、県下全域に呼びかけて、農村セラピー協会の設立を行った。

「ほっとステイ」には海外からの訪問者数も増加しており『国際青少年交流農村・宣言』を行い、アジア諸国等から2010年は1,021人が訪れた。またイオン労働組合が定期的に訪れたり、東京の楽団員約30人が訪れて、施設訪問や無料コンサートを開催する等の新たな交流も生まれている。これまでの来訪者数は延べ40,000人を超え、「人々に来てもらうことで成り立つ農村」としての自信も生まれ、受入れ家庭数は延べ121軒、常時受入れが可能な家庭は60軒を超えている。「ほっとステイ」の受入れ組織（民間）が長野県下7地区の市町村に広がり、「長野県ほっとステイ協会」を組織化し、年間11,000人以上を受入し、周辺地域の活性化にも寄与している。

（「JTB交流文化賞優秀賞」株式会社ジェイティビーよりご推薦。）